



きわどい!!

日退教和歌山新聞

日本退職教職員協議会和歌山
日退教和歌山
640-8114 和歌山市船場町16
日教組和歌山 内
TEL 073-436-6820

知らせ」欄に庭先養蜂の進め・勉強会「絶滅が危惧される日本ミツバチを考えよう」が目につき、週一回の勉強会に参加するようになりました。参加者は年配の養蜂経験者や私のようなこれからやってみようと思っ

て参加している人、西洋ミツバチの若い養蜂家、母親同伴の小学生まで老若男女誰でも気軽に参加できる会でした。この先生は養蜂家ではありませんが絶滅が危惧される日本ミツバチの飼育者を増やして少しでも日本ミツバチの保存に役立ちたいと、

私がミツバチに興味を持つようになったのは次のような理由による者です。

1. 20年位前から原因不明でミツバチが減少し続けており、近い将来絶滅危惧種に指定されるであろう。また、2008年には世界的に「ミツバチ群崩壊症候群」がニュースやメディアで取り沙汰され「もし今、地球上からミツバチがいなくなったら野菜や果物の収穫量が激減し、人類は3年程度で滅びてしまつたろう」と言われている。
2. ミツバチが不足しているため。マンゴーやイチゴ農家がハウス栽培に、医療用に無菌状態で培養したハエに受粉を促し収穫量を確保している。
3. 銀座のビルの屋上で養蜂し、年間5トン、大阪では梅田のビルの屋上で40kgの蜂蜜がとれた。
4. 海外ではパリ、ロンドン、ニューヨークなどでも養蜂が注目されており、パリではオペラ座の屋根に巣箱を設置し話題になっている。
5. アメリカではミツバチによる死亡事故が発生しており、「キラードー」と呼ばれ恐れられている。地球温暖化の影響もあり被害は北上し続け、今ではカナダまで拡散している。
6. 身近なところでは2015年5月8日、ブラウリ丁商店街の入口にハチが巣を作っているのを発見。偶然通りかかった養蜂家の調べで日本ミツバチと判明。捕獲した約2万匹を加太で飼育し9月に60kgの採蜜に成功した。

等々、ミツバチに関する情報を。よく見聞きするようになりました

蜜蜂の不思議

大山 隆生

仕事との両立を図りながら自分の飼育経験を踏まえ話をしてくれます。この方は日赤病院の西側にお住まいで小さな庭と玄関先の軒下2群、海南のお寺の墓地近くの雑木林で2群、ホテルアバロームで3群飼っていました。アバロームでは万ーのことを考え、客と遭遇しないように建物の南側に巣管を組んで高さ3mほどに棚を作りその上に巣箱を設置していました。当初本当に街中で養蜂なんてできるのかと、半信半疑でしたが実際目の当たりにすると扱い方を誤らない限り安全に飼うことができるとわかりました。和歌山市近辺には意外に蜜源が多くあります。和歌山城・秋葉山・三葛・紀三井寺・和歌浦・紀伊風土記の丘・加太・紀泉アルプス等です。

ざいわい二〇二二年四月先生の巣箱から分蜂した1群を譲ってもらい、兄の畑に設置しました。さらに六月同時期に入会した仲間から1群譲って頂き、自宅で飼い始めました。順調に育って群も大きくなっていましたが二〇二二年1月ごろより急にハチ数が減り始め、二月中旬2群とも全滅してしまいました。

「なんとか越冬させられたかな」と思っていた矢先のことです。とても残念でした。原因はよくわかりませんが、蜂蜜を残して死滅しているところを見ると飢え死ではなく「寒さに負けたのかな」と思っています。先生に聞いてみると、「野生の群で1割、飼育している群で3割程度のものだから仕方ないでしょう」とのこと。今年も現在1群自宅で飼育しています。ほんの少しの飼育経験と先生から教えて頂いた事を何回かに分けて紹介したいと思います。内容は絶滅危惧種になる理由・蜂の種類・養蜂の歴史・生態・西洋ミツバチと日本ミツバチの違い蜂蜜等々についてです。



(つづく)

<計 報>

小山 均さん

昭和30年8月30日生まれ
令和4年10月8日 逝去

<略歴>

昭和53年3月仏教大学卒業
城東中を振り出しに河西中・東中・日進中・河北中・西浜中・高積中・西和中・和大附属養護学校・貴志中・桶見中・西脇中みらい分校・東和中に勤務

平成28年3月定年退職
マンガを描くことが得意でした。2カ月ほど前に組合事務所に最期のお別れの挨拶に見えていたそうです。

(計報欄の略歴を今号から簡略化しました。)

「子どもたちの未来と被ばくを考える会」主催

今中哲二さんの講演会

(京大大学複合原子力科学研究所・研究員)

演題 福島原発事故の後始末と責任

日時：3月4日（土） 14:00

場所：プラザホープ (参加費無料)

福島原発事故から11年、課題を先送りにしたまま岸田内閣は、原発の運転期間の延長や立て替えなど原子力利用に舵をきりました。

今、原発は今どうなっているのか、この機会に改めて勉強してみませんか。

<お詫びと訂正>

127号に掲載した戦没者追悼の歌「すべてを捧げて」の歌詞に間違いがありました。冒頭の部分、正しくは「思えばあれから幾十年 月日がどれほど流れても」です。申し訳ございませんでした。



日退教和歌山新聞

日本退職教職員協議会和歌山
日退教和歌山
640-8114 和歌山市船場町16
日教組和歌山内
TEL 073-436-6820

シリーズ2 ミツバチの歴史

大山隆生

ミツバチは地球上いたる所に生息していますが、養蜂の歴史は古く、エジプトのツタンカーメンの墓の壁画に養蜂の様子が描かれています。当時は粘土で作ったと思われる巣箱を使っていたようです。また、古代ローマ時代には養蜂でミツバチを得るだけでなく意図的に蜂に刺されることによりウマチの治療にも活用されていたようです。実際「日本ミツバチ保存会」の会員が何度か刺されて肩こりが改善したと聞きました。蜂の毒には組織を軟らかくする働きがあるようです。現在も泉南で西洋ミツバチを使った鍼治療をしている鍼灸院があるそうです。

さて、日本での養蜂は平安時代に紀州熊野や対馬で行われたのが始まりと言われています。当時蜂蜜は貴重品で幕府や朝廷への献上品として重宝されたと文献に残っているようです。

江戸時代に田辺の有田蜜一（江戸期の偉人）が養蜂のノウハウを書物にまとめ、養蜂技術を日本中に広めたと言われています。また、この頃幕府には養蜂方が置かれていたようです。

1887年、明治政府が農林水産省の主導で、畜産の近代化を図るため、採蜜能力に優れた西洋ミツバチ（洋バチ）が導入され、洋バチによる本格的な養蜂が始まりました。当時はロシア・フランス・イタリアから輸入したのですが、現在はほとんどイタリアバチによるものです。シゲトや菜の花畑がたくさんあった子どもの頃、本格的な養蜂家はトローリーに巣箱を載せて契約した農家の畑に巣箱を置き、鹿児島から開花に合わせて採蜜しながら東北地方まで北上していくという養蜂が行われていました。日本ミツバチ（和バチ）の採蜜能力は洋バチの五分の一程度しかありません。従ってこのような養蜂は採蜜能力の高い洋バチによるものです。洋バチは嗜好癖があるためシゲ・みかん・マンゴー・アカシア等の花の近くに巣箱を置けば単一の花の蜜が得られるわけです。一方、和バチは花畑に巣箱を置いてち蜜の近くの花には蜜を採りに行きません。これは蜜の場所を

外敵に察知されないようにするための防衛本能が働いているためと考えられており、より野性的と言えます。また、花に対する嗜好癖が少ないため四方八方から色々な種類の花の蜜を集めてきます。従って和バチによる単一の蜜は得ることができません。しかし、この蜜は「百花蜜」と呼ばれ、さっぱりとした上品な甘さがあり大変希少価値の高いものです。純粋の百花蜜は国内のミツバチ生産量の1%程度といわれています。

そもそも、ミツバチが花の蜜を集め巣の中に蓄えるのは、越冬中の食料保存のためです。冬場は花が少なくなるうえ、「ハチは8℃」といわれており8℃以下では活動できません。

また、蜜を蓄えるだけでなく花粉も蓄えています。ミツバチにとって花の蜜は主食のご飯で花粉はおかずのようなものです。さらに水も飲みます。

また、花粉は育児係から幼虫の餌として与えられます。離乳食のようなものでしょうか。さて大正6年には洋バチと和バチの飼育群数が逆転し、1920年代に入ると養蜂の技術がさらに整い始め、給餌（砂糖水や花粉）をすることや、防曇防寒対策・抗生剤使用で病気の予防等で、洋バチによる生産性が飛躍的に伸びました。1923年、養蜂振興法が制定され、養蜂家だけでなく趣味者も含め年一回、一月一日現在で和バチ・洋バチを飼っている人は、県の農水課へ届け出ることが義務化されました。これは規制する目的ではなく、蜜源が競合することを避けたり、サックブルドウィルスやアカリシダニ発生を伝える感染拡大を予防するための制度です。養豚には「豚コレラ」、養鶏には「鳥インフルエンザ」、牧牛には「狂牛病」があるように養蜂にも感染症の予防が大切です。生業としての養蜂は家畜と同じことでしょうか。趣味としての養蜂はペットでしょうか。

現在、生業としての養蜂はほとんどが採蜜効率の良い洋バチですが、企業がリストアップ回避の手段として希望者を募り、養蜂に取り組んでいるところがあります。また、京都府中央区役所では「街興し」の一環として、役所の屋上で養蜂をおこなう、小学生の校外学習の場としても活用しているようです。ここは二条城が近いので蜜源が豊富に

あるとおもわれます。このほかに高校の部活動、老人ホームの余暇活動、農協の婦人部等で扱っているところがあります。もちろん私のように「日本ミツバチ保存会」の一員として活動している人もいます。日本ミツバチの生態研究と保護繁殖に、また、会員相互の研修交流に今しばらく取り組んでいきたいと思います。

前回の「ミツバチの歴史（シリーズ1）」に誤りがありました。訂正してお詫言申し上げます。

2行目「やる者です。↓やるものです。」

30行目「養蜂の進め↓養蜂の勧め」

※数字のアンバランスは算用数字に。

連合和退連主催 囲碁大会 湯川和洋さんが4位になる

湯川さんは、教員在職中から囲碁がめっぽう強くて、毎年、この大会に参加してくれています。今年は、頑張ってくれ4位になりました。優勝は、JF労組和歌山退職者の会 倉脇康徳さんでした。

日退教和歌山のこれからの行事

*恒例の春のバスツアーを再開します。

まだ行き先は検討中ですが、

実施日は、5月23日（火）です。

後日、募集のパンフを配布します。

*新たに、「ヨカ教座」を開きます。

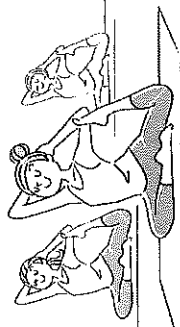
日時は、5月13日（土）10時半～12時

中央コメセンで、ヨカの基本から家でもできるヨカを教えていただきます。

少し硬くなった身体をほぐしてみませんか

詳細は、同封のパンフを見てください。

*トルコ・シリア大地震の被災地に募金しました。



日退教和歌山新聞

日本退職教職員協議会和歌山
日退教和歌山
640-8114 和歌山市船場町16
日教組和歌山内
TEL 073-436-6820

冬場巣の前で横たわっているハチをよく見かけることがあります。蜜を採りに出かけて気温の低い空中を飛んできたためか、巣に入る直前で力尽きてしまったものと思われる。これらのハチを

日本ミツバチの生息域は長い間、沖縄県から福島県までとされてきましたが、昨今の温暖化の影響か青森県まで北上が進み、さらに本年度初めて北海道で越冬が報告されました。人間は急に寒いところに出ると、ブルツと身体が震えることがあります。これは急激に奪われた体熱をすぐに補おうと無意識に起こる反射行動です。ミツバチはこれを集団で意図的に継続して行っているのです。

このことから、農家にとってミツバチはいかに大切な存在か親い知ることができます。

ミツバチが他の昆虫と大きく違う点は、越冬することができるということです。特に日本ミツバチは越冬の能力に優れているようです。単体では気温8℃以下では体温が下がってしまい活動できませんが、集団では身体を寄せ合って塊になり、飛翔筋をを小刻みに震わせて熱を生み出します。そしてお互いの体温を上げるとともに、巣内を暖房し卵や幼虫、それにさなぎを護ります。

本来自然界に生息しており、果樹や野菜の受粉を促し収穫に貢献しています。従って栽培品種によってビニールハウス内に購入したミツバチを放ち、収穫量を上げている農家があります。しかし働きバチの寿命は約3週間と大変短く収穫期間中何度も補充する必要があります。（農家への販売専門の養蜂家もいます。ちなみに1セット約3,000匹で6,000円）。養蜂家からのミツバチの輸送には、かなり前から郵便局が活用され（局留め）ているようです。

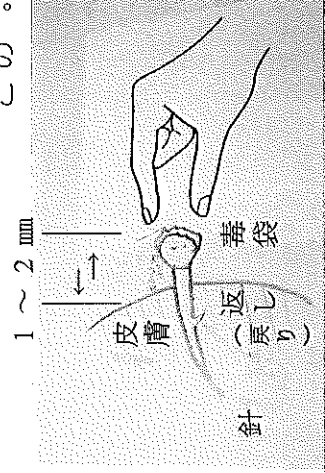
ミツバチシリーズ3 ミツバチの生態（その1） 大山 隆生

内臓と針が繋がる様子

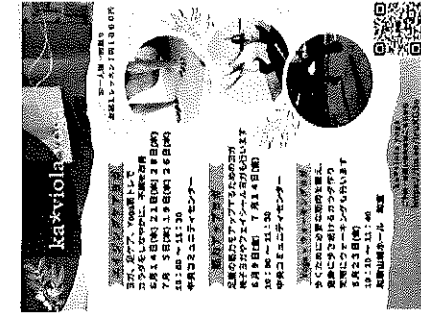


日本ミツバチは大変穏やかな性格で、よほどの危機感を与えない限り刺すことはありません。しかしこの場合、巣の中で急に覚醒したハチが急変した環境の変化を正しく認識できず、生命の危機と捉え思わず刺してしまっただけでしょう。

また、夏の暑さに対しては巣の入口で、複数のハチが羽ばたいて外気を巣内に送り込んだり、口に含んだ水で巣の中の壁を濡らし、気化熱で巣内温度を下げたりしています。このように集団で冷暖房の快適な生環境を維持することができるのです。



掌にそっと拾い上げ、反対の手で蓋をしてしばらく温めてやると掌の上で羽ばたきを始めるのを感じることがあります。仮体温症で仮死状態になっていたと思われるハチを蘇生させることができたのです。そっとつまんで巣の入口に置いてやるとトコトコと歩いて入っていきます。救命救急大成功です。横たわったまま蘇生しなかったハチも、タイミングが良ければ一度に十数匹の命を救うことができます。しかし、まれにこの救命救急中に何を思ったのか掌を刺すハチがいます。せっかく救われた命なのに刺すことによって自ら命を落としてしまうことになるのです。「ハチの一刻し」という言葉があります。スズメバチ類は同じハチが何度も刺しますがミツバチは一度刺すとそのまま死んでしまいます。ミツバチの針には戻り（返し）が付いていて凶臓と繋がっています。従って、刺したあと胴体が飛んでしまっても針は刺した皮膚に刺さったまま残ってしまい、抜けにくい構造になっています。さらに、その針の端には毒の入った袋が付いていて、刺さった針を抜こうとすると自然に毒袋をつまんでしまい、さらに毒を絞り出すような仕組みになっています。



和田先生は、中央コミセンや和歌山城ホールでも三方教室をしているそうです。

身体はすっきり、気持ちも爽やかに終わりました。家でもできる簡単な運動もあり、生活に取り入れていけそうです。

- ① 周りの人と比べて無理をするのではなく、自分の気持ちの良い運動でいいこと。
- ② 足首、手首、腰のくびれ、首の柔軟性が大事なこと。
- ③ 首の運動は、耳の外周の指圧や上・外・下に引っ張ることでも代わりになる。
- ④ 足の裏には全身のツボがあるので、親指を中にして、握った拳で思い切り足裏全体をたたくことで疲労回復にも良い。
- ⑤ 運動するときは、今日のランチは何を食べようかなどの雑念は捨て、今している運動のことに集中することで効果がアップする。

五月十三日、日退教和歌山発の三方教室に参加しました。和田先生のもと、十三人、一時間半みっちり運動した一部を紹介します。

三方教室に参加して 神前加代子

- お詫びと訂正(シリーズ2)(編集部のご配慮でした)
- 1段1行目 ミツバチの歴史→養蜂の歴史
 - 5行目 養蜂でミツバチを得る→蜂蜜を得る
 - 2段4行目 花の道を集めて→花の蜜を
 - 8行目 ミツバチ生産量の→蜂蜜生産量の

今回の講師先生の紹介
和田佳代子さん
「健康で美しく、オーラ輝く人を目指して」と
Yogastudio Ka*viola
を運営されています
<https://ka-viola.crayonsite.net/>